特別展
民藝のモノと思想
ー暮らしの中の美を探るー

2018年
10月6日(土)
▼
11月4日(日)

■開館時間　9：00〜17：00
（入館は16：30まで）
■観覧料　300円（15名以上の団体は、1名につき200円）
高校生以下無料
■休館日　毎週月曜日
（ただし、10月8日(月)は開館、翌9日(火)は休館）

美郷町学友館

〒019-1404
秋田県仙北郡美郷町六郷字安楽寺122
TEL 0187-84-4040

主　　催：美郷町・美郷町教育委員会
企画協力：海青舎
後　　援：日本民藝協会

上左／一斗壷〈小鹿田焼〉
大分県（昭和50年代）部分
上右／型絵染「絵本どんきほうて」
芹沢銈介作　吾八（昭和51年）
中　／柳宗悦著「手仕事の日本」
靖文社（昭和23年）
下左／端広鉄瓶　山形県銅町
（明治時代）部分
下右／さしげら〈わら細工〉
秋田県美郷町

『美郷の手仕事』による「わら細工」「あけびづる細工」「六郷ザル」も同時展示

わたしたちが日常に使っている「民藝」という言葉は、1925年（大正14年）に白樺派の同人であった柳宗悦によって作られました。工藝の美しさは限られた作家によってのみ生み出されると思われていた時代、柳はそうした既成の見方にとらわれず、無名の職人が実用のために作ったモノに美を見出し、これを「民衆的工藝」と呼び、民衆の民と工藝の藝の二文字を使って民藝と名付けたのでした。それは新しい美の発見であり、新しい思想の創造でありました。

大正昭和の時代、西洋化と機械化が進み手仕事が急速に廃れていくなか、柳宗悦は全国を巡って各地に残る手仕事を調査し、その成果を『手仕事の日本』に著しました。

さらに柳の活動は手仕事の分野にとどまらず、当時の日本の帝国主義に抗し朝鮮支配の不当さを説き、またはアイヌ民族の尊厳を語り、沖縄では方言を擁護して当局と論争を起こすなど、民族固有の文化と尊厳には如何なる上下もないことを訴え続けました。

民藝誕生から九十余年、柳が没して半世紀を経た現在においても民藝の思想は色あせることはありません。

本展では柳宗悦の著作をはじめ『手仕事の日本』に掲載の品と現代作品を併せて展示し、近代日本の普遍的思想といわれる「民藝」の多様性を紹介します。

また、「美郷の手仕事」によるわら細工やあけびづる細工などの作品も併せて展示し、技術の継承と機運の醸成につなげます。

写真提供：日本民藝館

柳（やなぎ） 宗悦（むねよし）（1889～1961）

心偈「今日空晴レヌ」
柳宗悦直筆（昭和30年代）

オープニングセレモニー

日時：10月6日㈯　午前9時30分～
場所：美郷町学友館

ギャラリートーク

日　時：
10月6日㈯　①午前10時～②午後2時～
11月4日㈰　①午前10時～②午後2時～
場　所：美郷町学友館
講　師：三浦正宏氏〔本展企画協力〕
（海青舎代表／日本民藝協会会員）
※申込不要。展覧会チケットが必要。

わら細工ワークショップ

日時：10月21日㈰
①午前10時～正午
②午後2時～午後4時
場所：美郷町学友館
講師：美郷わらの会会員
※申込不要。

雑誌「白樺」
第4年4月号 白樺社（大正2年）

型絵染「秋」
小島悳次郎（とくじろう）作（昭和57年）

石仏「地蔵」
新潟県佐渡（昭和40年代）

湯呑〈益子焼〉
栃木県（昭和51年）

きもの〈芭蕉布〉
沖縄県（平成2年）

肥後守（ひごのかみ）〈三木金物〉
兵庫県（現代）

マカイ〈壺屋焼〉
沖縄県（現代）

木綿反物〈阿波藍染〉
徳島県（現代）

姫椀〈会津漆器〉
福島県（昭和50年代）

背中あて
山形県置賜（昭和40年代）

美郷の手仕事

美郷町でも、手仕事により伝統的に製作され、日常的に使用されてきたものに「わら細工」「あけびづる細工」「六郷ザル」があり、今回展示します。

このうち「わら細工」については、町で所蔵している約600点のうち、作品384点、制作用具37点が「美郷町のわら細工及び制作用具」として、秋田県指定有形民俗文化財に指定されています。

写真提供：秋田県立博物館

わら細工

あけびづる細工

六郷ザル

※「わら細工」を含む美郷町の民俗資料は、美郷町歴史民俗資料館に常設展示されています。

交通のご案内

車／秋田自動車道大曲ICから国道13号を横手方面へ約20分
横手ICから国道13号を大曲方面へ約30分
JR大曲駅から約20分　JR飯詰駅から約10分
バス／大曲バスターミナルから横手方面（六郷経由）行き
六郷上町下車 徒歩約10分